



安全対策の充実求める

NIPPOの吉川芳和社長
高知県内現場パトロール

NIPPOの吉川芳和社長は、高知県内で施工中の「令和4年度越知道路舗装

工事」(四国地方整備局発注)の現場で9日に安全パトロールを実施した。現場の安全対策を隅々まで確認し、職員にさらなる充実を要請した。

全社安全衛生方針に掲げる「安全作業5つの誓い」を順守し、死亡災害を防止する「取り組みの一環で、トップ自らが現場を点検した。米岡拓彦執行役員四国支店長らが同行した。

現場の進捗(しんちよく)率は13%。VR(仮想現実)を導入して掘削作業の現況と完成形をスマートフォン画面で確認しながら、重機と人の接触など作業中の危険を事前に予測し事故防止に役立てている。

現場を点検する吉川社長

(中央) NIPPO四国

支店提供

吉川社長は「橋梁のジョイント部や壁高欄は高所作業となるので、仮設計画などを上位部署とよく検討した上で安全作業に努めてもらいたい」と指示した。



高知県内の舗装工 を社長パトロール

NIPPO

NIPPOの吉川芳和社長は9日、高知県内で四国地方

整備局発注「令和4年度越知道路舗装工事」の安全パトロールを実施した。写真。米岡拓彦執行役員四国支店長らが同行し、全社安全衛生方針にある『安全作業5つの誓い』を順守し、死亡災害を防止する」という視点でパトロールした。

工事の進捗率は13%。掘削作業（重機と人の分離、10トングランプの誘導）では、VR（仮想現実）を利用し、現況と完成形をスマートフォンの画面で確認することにより、作業時の危険を事前に予測して安全対策に役立てている。

吉川社長は「橋梁のジョイント部や壁高欄は高所作業となる。仮設計画などを上位部署と十分に検討した上で、安全作業に努めてもらいたい」と呼び掛けた。